

シナリオ風メモ
「かまどのめし」



20231214AM0623



エリー



目次

| | |
|--------------|---|
| 0、ネイタルホロスコープ | 1 |
| 1、心配 | 2 |
| 2、ユウギリの教え | 3 |

0、ネイタルホロスコープ

○ユウギリの部屋のダイニングキッチン(夜)

玄関につながる6畳ほどの洋室。

台所でユウギリが歯磨きしている。

激しくチャイムがなる。

泡だらけのまま玄関に出るユウギリ。

キウイとヘチマが先を争って報告する。

ヘチマ「今、ついさっき、産まれって連絡がきて。女、女の子！」

キウイ「ユウギリさん、赤ちゃんのホロスコープ、見てください！」

ユウギリにぐいぐい迫るヘチマ。

ユウギリ「ヘチマとキウイも待て。見ての通り、わたしは歯磨きの途中だ」

ダイニングテーブルに並んで座るキウイとヘチマ。

向かいには端末を覗くユウギリ。

ユウギリ「まったく、落ち着きがない。子どものころからキウイもヘチマも！」

ヘチマ「またヘマって言うんでしょ！ 嫌だよ、その呼び方は」

キウイ「同級生が優秀だと辛いよなあ。いつも比べられて」

ヘチマ「でもさ、ポトスも人間。奥さんが心配で同級生の俺らに頼んできたし」

キウイ「母親のオモトさんも、娘のカエデちゃんも元気で、泣いてました」

ヘチマ「父がポトス、母がオモトさん。しっかりものの両親の娘だから有能なんだろうなあ」

ユウギリが端末でホロスコープを見る。

太陽と金星と土星が4ハウス牡牛座で重なっている。

ユウギリ「五感を育てることが人生の目的だが、課題でもある。成長に時間がかかるだろう。愛ゆえに迷う」

ヘチマ「つまり、どんくさい？」

キウイ「俺らと同じ？」

親近感と心配で顔を見合わせる。

キウイとヘチマ「ポトスの代わりに俺らが見守る！」

キウイとヘチマが、親指を立ててみせる。

1、心配

○給食室 (夕方)

夕飯の準備で、大人たちが調理している。

オモト、ヘチマ、キウイ、カエデもいる。

ほうれん草を茹でるお湯を沸かしている。

オモト「底から小さい泡が出たら教えてね」

カエデは鍋をじっと覗いている。

(わあ、小さいシャボン玉みたい。

シャボン玉といえば、パチンと割れて目に入った時は痛かったな。

シャンプーに失敗した時みたいだった。

シャンプーといえば、ユウギリさんの香り、とろんと甘くていい匂いだな。

お小遣い稼いだら買ってみようかな。でもマドレーヌ食べてみたいし、うーん……)

煮えたぎる鍋の湯。

オモト「鍋！」

カエデ「は！」

ヘチマとキウイが心配する。

ヘチマ「やっぱり来年は早いよ。7歳からは無理。米炊きを延期した方がいいのでは？」

キウイ「俺らが村に話をつけますよ」

オモト「大丈夫よ。普通、付き添いは1週間だけどねえ、1年しようと思うの。それでいいでしょ、カエデ？」

カエデは、米炊きさせてもらえないかとハラハラしていたが、ほっとする。

カエデ「うん！」

母のオモトに抱きつく。

2、ユウギリの教え

○ユウギリの家のダイニングキッチン(夕方)

ユウギリがダイニングテーブルで、ライダー版タロットを展開している。

オモトが、カエデを連れて、どうしてあげるのがよいか、ユウギリに相談してる。

ユウギリ「カエデ、今から話すことをよく覚えて起きなさい。宗教は廃れたが、こうして占いの価値観は共有された。誰でも占うわけではない。しかし、いいこと、わるいことはみんな一緒だ」

カエデ「違うと困るの？」

ユウギリ「生き物として食べて、出して、寝る。子どもを産み育てる。人生で生活する以上に大切なことはない。だが」

何を言うのか、じっと聞いているカエデ。

ユウギリ「弱いものが楽に暮らせるものを作るためには、無いものを買わねばならん。そのためには外国から金を稼いで資源を買う必要がある。カエデの父ポトスは輸出して外貨を稼いでいる」

誇らしいカエデは、鼻を膨らませてにーっと笑う。

ユウギリ「大人も子どもも、衣食住は配給される。だがしかし外貨を稼げる人物に育てるために、働いてない子どもは、小遣いを稼がねば、欲しいものは買えない」

カエデ「わたしはわらを燃やしてかまどで飯を炊くの！ それでまだたべたことのないマドレーヌを買うの！」

ユウギリ「いいことだ。150年前の日本は同じ年の子どもを集めて、部屋に閉じ込め、正解を教えた。その結果、大雑把な知識だけで、現実を知らず、行動できない人間が増えた。集中力を鍛えてないから、分かるだけで、できない」

カエデ「カエデはできるようになるかな？」

ユウギリ「なかなかできなくても、年下に追い越されても、くじけずに続けるなら」

カエデ「そんなに時間がかかるの？」

ユウギリ「ああ、もしかしたら、一生かかるかもしれん」

カエデ「一生、マドレーヌが食べられないの？」

泣きそうにうつむくカエデ。

ユウギリ「13歳から15歳で工場勤めすれば、16歳から村の仕事をして小遣いももらうか、街に出て稼ぐことになる。村に戻るなら、できるようになっても、できるようにならなくても、16歳で食べられる。安心しなさい」

カエデ「うん！ それならあきらめないで頑張る」

黙って聞いていたオモトが、カエデの頭をなでる。

シナリオ風メモ「かまどのめし」20231214AM0623

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
